

ぜん ぎょう じ
善巧寺報

10 月号



月刊●善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号
TEL 048(734)7660
榎本明覚



〔季節の花〕の草叢から顔をのぞかせたのはツヅリサセコオロギ。その名の由来は、鳴く音の《聞きなし》から。虫の声を、人の言葉に当てはめて聞くことを《聞きなし》と言う。「ツヅリサセ」は「冬に備えて衣の綻びを繕え」の意。

季節の花

～ 綴刺蟋蟀 ～

定例法座

毎月
十一日

◎十月十一日(火)午後二時

～三時

於 法輪会館

「正見」

お釈迦さまがお悟りを開かれた後、初めてお説法なさった内容の一つに「八正道」があります。八つの聖なる行いがそれぞれ、正見・正思惟・正語・正業・正命・正精進・正念・正定を言いますが、最も重要なのは正見(正しい観察)です。何故なら誤った見解を抱いてしまうと、それに基づくすべての行い、結果も当然誤ってしまふからです。お腹が痛いのに風邪薬が効くと思いい込みそれを飲み続けても腹痛は一向に治らないのと同じように。

現代で言えば、正確な答えを得るには、バイアスやノイズを除いた正しいデータに基づいて論考しなければならぬという事でありましょう。

さて仏教における正見とは、自身の身体も心も全てが変化して止むことがない(無常)、と正しく見る事です。ところが平素私たちは、自分の所有物、自分の肉体・精神がいつまでも存続するかのように錯覚します。それらの何か一つでも失うと苦を感じ、失うことを恐れながら暮らす、これでは平穩はいつになっても訪れない、というわけです。自身が無常の存在であるという現実を認める事が正しく「正見」の第一歩なのです。

みほとけ会

※ ZOOM ミーティング ※

毎月第一・第三木曜日午後八時～開催中です。

参加ご希望の方は、

jeffidget@gmail.com まで

メールお願いします。開催当日夕方に招待メールを返信いたします。

◆◆春日部だより◆◆

◎お彼岸参詣では大変お世話になりました。お参りに伺っておりますと、地域のお祭りなども様子見ながらも各地で再開されている様子。基本的な対策(手洗い・マスク)をしつつも徐々に平常運転に。くれぐれもご自愛のほどを。

◎十一日の定例法座後は、久しぶりに本堂仏具おみがき清掃奉仕を行いましたと思います。ご協力いただける方は軽装でお越しくたね。



善巧寺 報恩講

COVID-19感染第七波もようやく収束傾向になりつつありますが、本年も大事を取りまして規模縮小、導師と助音にて行います。三密回避のため申し訳ございませんが、定員を二〇名(※先着順)とさせて頂き、マスク着用でのご参拝をお願いいたします。お齋接待も中止とさせて頂きます。ご理解の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

十月二十三日(日)

十一時 法要 (於本堂)

『正信念仏偈』

ひきつづき ご法話

「南無阿弥陀仏のご利益」

善巧寺 住職 榎本 明覚

十二時十五分 終了

※出欠の有無を同封のハガキにご記入頂き、十月十七日(月)までにご返信賜りたくよろしくお願ひ申し上げます。



◎写真は、報恩講や永代経など重要な法要で張る「五色幕」です。五色の意味はさまざまに説明されますが、チベットでは五大(世界を構成する五大要素「地(黄色)・水(緑)・火(赤)・風(白)・天(青)」)とされます。ヒマラヤの高山に五色の旗(タルチョ)がたなびいているのをテレビなどでご覧になられた方もいらっしやるのではないでしょう。中国に仏教が伝わり、陰陽道の五行説(木・火・土・金・水)の影響もあり色合いも変わってきただようです。日本の五色については、真言宗の五智如来(金剛界の五仏)「大日如来(白)・アシュク如来(緑)・宝生如来(黄色)・無量寿如来(赤)・不空成就如来(黒・紫)」と配分する説や、お釈迦様の身体を表す「毛髪(緑)・身体(黄色)・血液(赤)・齒(白)・袈裟(紫)」と仰る方もいます。ちなみに紫の袈裟は、皇帝が高僧に下賜するという中国の階位制に順ずるものなので、本来の袈裟色(オレンジ色)にするべきという意見もあります。